

西本 章 議会報告

福山市議会
市民連合

2023年
4月10日
NO. 76

編集 西本 章 後援会事務所
福山市引野町一〇五二一
TEL 〇八四(九二六) 五四四一
FAX 〇八四(九二二) 五二二二

世界や国の動き

福山市内での新型コロナウイルス感染者は減少しつつあり、県は2月21日に感染レベルを「1」に引き下げました。国においでも2月8日には2類から3類への引き下げがされる予定です。しかし、日常生活でのマスク着用はまだ微妙な状況が続きます。

2月6日にはトルコ・シリアで大きな地震があり、5万人を超える死者があり、世界中からの支援活動が取り組まれています。

トルコと黒海を結んだウクライナの地域での戦火も続いています。ロシアとウクライナの闘いではなく世界中を巻き込んだものになっています。「即時停戦」の声を大きくすることが必要です。

日常生活においては、公共料金や生活用品の値上げは、3月1日までの間に、4月1日までの間に、5月1日までの間にそれぞれ実施されます。

そうした社会経済状況が続くなか、岸田政権はウクライナへの電撃訪問などの動きがあったものの、国際的にも国内的にも有効な対応をすることなく、時間だけが経過しているということも過ぎるではない状況です。今回の県議会議員選挙では支援する候補者33名県議会へ送ることができました。改めてご支援に感謝申し上げます。

3月議会「市長の総体説明より」

議会冒頭の総体説明で、新年度は浸水対策や学校の耐震化も終わり、安心・安全な生活環境も整い、まちの景色が大きく変わると表明されました。人口減少や少子高齢化が進行する中、暮らしの基盤となる地域コミュニティの役割はますます重要になり、地域コミュニティがその機能を発揮していくためには、思いやりの心を持って助け合う、人に優しいまちづくりの視点が大切であることも述べられ、子どもや子育て世代、高齢者、障がいのある方など、誰もが安心して快適に暮らせるまち、そして多様な人材が活躍し、活力と希望があふれるまち、そうしたまちの実現に向け、「未来への歩み」を力強く進めると述べられました。

代表質問・予算特別委員会から

今議会では新聞等でも報道されている学校図書館環境整備事業について議論が集中しました。県教委と同じ事業を福山市で展開すること自体に問題があり、市内全ての図書館の監修を個人に依頼した事、監修者の本を大量に購入している事、合計で50万冊を超える図書廃棄、廃棄に伴う充足率の事、選書について等々の課題があります。

県議会でも契約の在り方等について問題の整理がされていますが、福山でも同様の課題が考えられ、代表質問や予算特別委員会でも質疑を重ねました。



基本的にはこの事業を根本から見直し、課題の整理を行う検証委員会の立ち上げを求めています。教育的効果のある図書室になるよう、引き続きご提言していきたいと思っております。

2月12日に福山手をつなぐ子育て支援会主催の祝う会が開催されました。今回で8回目になります。私は一回目から参加させてもらっています。

主催の成人式ではなく、自主開催の祝う会です。参加者は「福山市に在住、または通勤・通所している障がいのある方とその家族・支援者」とあります。

もちろん市長からのメッセージもあります。最初の頃、この祝う会参加者にも市からの記念品をこの要望があり、そのことを担当課に繋ぎ実現した経緯もあります。

新たな出発の場に立ち合わせたいですし、お祝いの言葉を述べさせていただいています。

読み聞かせで読んだ絵本が「ミカ」に

私が、小学校や地域ふれあいサロンでの読み聞かせに使っている絵本「バスが来ましたよ」がミューズカルになりました。この絵本は実際に基づいた絵本で、今回、該当子どもの小学校の児童により演じられました。

当日は、絵本にも登場している視覚障がい者の山崎さんも児童の保護者と一緒に観られたそうです。ぬくもりの「小さな手のリレー」が大きく拡がり、花が咲きました。機会があれば是非鑑賞したいですね。

トルコ地震
被災者支援
カンパ

2月25日、宮口はるこ参議院議員の呼びかけで福山駅前において被災者支援街頭カンパ活動が行われ、私も参加しました。急遽の呼びかけで参加議員は私と宮口さんだけになりましたが、大学生や支援のボランティアや支援労組からも参加がありました。短時間ではありましたが小さな子どもたちからお年寄りまで積極的に支援カンパをしてくださりました。一時的なものでなく継続的な支援活動が必要だと思いました。

東日本大震災から12年が経過しました。今もなお避難地から帰還できない人が3万人以上います。福島原発の汚染水や放射能物質などの後処理の課題もあります。そうした中で原子力発電所の稼働期間を40年から60年に変更したことも絶対に許すことはできません。

日頃からの災害への備えや、原子力発電所の問題なども考えていかなければなりません。



3・11 街頭に立つ